

この船に乗せるのだ。想いを。命を。未来を。戦時下にあつて、明日を信じ、必死に活路を探し求めた人々の記録――。

ジャパンパイルの前身の一つである「武智工務所」をモデルとした漫画「コンクリートの船」(作家・村上たかし)の連載が、5月2日発売のビッグコミックオリジナル(小学館)の10号から開始する。

物語の舞台は、戦前の大阪。研究者・武田宗次郎は基礎工事会社である武田工務店を立ち上げ、杭打ちの技術を革新的に進め急成長していた。大

手の建設会社に疎まれながらも、自身の会社と社員を信じてあちこちに手

なか、コンクリートの船を計画する若き軍人と出会う。その表現にまい進で設立された。漫画のモ

同コンクリート工業・ヨ一コンが経営統合する形で設立された。漫画のモ

## ジャパンパイル前身がモデル

### 漫画「コンクリートの船」

5月2日号から連載



公開されたイメージカット

を出し営業する日々。戦争へと進んでいく当時の

なるといふストーリーと

デルとなった武智工務所は、ジोटトップの流れを

ただけたらと存じます」とコメントを寄せた。

日本で、資材不足から軍用船の建造が難しくなる

05年、ジोटトップ・大

後、37年に節杭による建

設基礎工事請負を目的とした浪速商事を設立し、50年に武智工務所に商号を改め、91年からジोटトップへ商号を改めた。

漫画の制作過程で取材に協力したジャパンパイル元執行役員技監で、基礎構造研究会理事の小椋仁志氏は「当社創業者・武智正次郎が戦時中に作った『武智丸』がモデルとのことで、大変楽しみです。当時の人々の情熱や生き様、そして現在も広島県安浦漁港で『水の守り神』として残るこの船のことを広く知ってほしい」とコメントを寄せた。